

イチゴ試験研究スマート農業化整備の目的

1 群馬県産イチゴ増産へ向けたスマート化技術開発

- ・ 今回の設備投資により、スマート農業化ハウスの技術普及を進めて、**イチゴ増産**へ。
- ・ 増産された「やよいひめ」の特長(果皮の強さ)を活かして**輸出拡大**を目指す。
- ・ 観光直売の強みを活かして、観光資源として**ぐんまの魅力度アップ!**
- ・ 農政部関係各課と協働で取り組み、県産イチゴを増産し、R15年度の**目標額40億円**を達成する。

2 群馬県農業のスマート農業化・脱化石燃料化

- ・ **スマート農業化** (最先端技術を用いた省力&精密農業) で**生産性を向上**。
- ・ **太陽光発電** エネルギーを利用してエネルギー収支を向上させ、群馬県の**脱炭素化の取組**を農業現場にも広く波及させる。

3 群馬県オリジナル新品種開発の加速化

- ・ スマート農業化により**イチゴの品種開発**環境を整備し、育種を加速化する。
- ・ 「やよいひめ」の果皮の強さなど輸出に有利な特性を活かして、他県に負けないより競争力のある新品種を開発する。

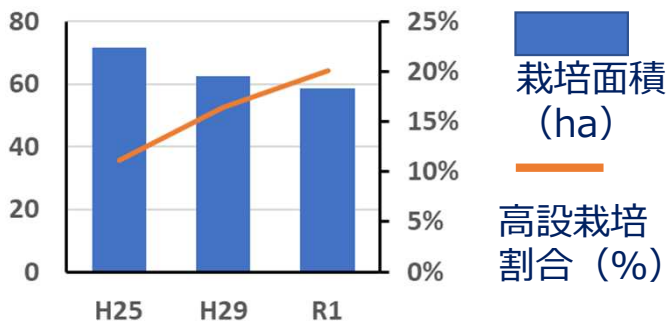
イチゴ増産技術を
農業技術センターが
先導的に取り組み
普及組織との協働に
より県内農家へ普及する

「やよいひめ」と新たな2品種を活用して ぐんまの魅力度アップ!

イチゴ生産現場の課題

イチゴ全体では減少しているが
高設栽培は伸びている。

新規就農者は土耕より高設栽培を選択



環境制御機器導入割合は
1割にとどまる。
一部では、最新機器を導入



化石燃料による暖房機

実施する研究内容

高設栽培設備



収穫ロボットも
先導的に導入



最新の環境制御機器



環境の数値化
遠隔制御



ヒートポンプ暖房機



CO2排出抑制

めざす姿

「やよいひめ」と2つの新品種による増産



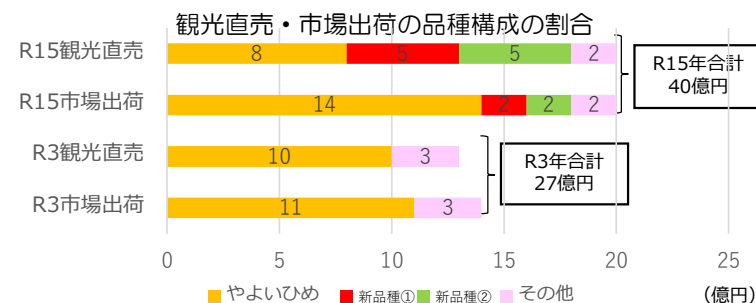
新品種①



新品種②



やよいひめ



イチゴ生産額

27億円(R3年度)→**40億円**(R15年度)

1人当たりの収入 ※生産者数が同数維持された想定

750万円(R3年度) → **1,111万円**(R15年度)

スマート農業&グリーン化セミナーの実施

農業技術センター 野菜第1係調査棟・資材庫の取り組み概略について

・ イチゴに関する様々な試験や調査を行っています

新しいイチゴの品種育成や技術開発、時には研修場所としても活用しています
施設新築後はハウスのモニタリングを行い、試験データ管理にも活用します



新築後は・・・
PCでイチゴハウスの状況
(温度など)、ソーラーパ
ネルの発電と消費量等を
チェック

・ イチゴの生産に使用する資材や農薬を保管しています

イチゴを作るためには様々な農業資材が必要ですが、それらを種類ごとに保管しています

・ 職員やパートさんの日々の活動に欠かせないものです

日々の業務はもちろんのこと、打ち合わせや作業の合間の休憩場所としても利用しています



調査スペース…果実の調査等に使用



資材庫内の様子



打合せ兼休憩スペース

イチゴ施設整備の現状と整備後（平面図）

現状



整備後

